

拝啓 下山由紀子様

随分、ご無沙汰しております。昨年（2005年）の夏にバルセロナの病院でお世話になった若林です。

日本の今年の夏は当初は梅雨の長雨の反動か、猛暑が何日も続き、立っただけでもつらい、焼けつくような日々でした。やっと8月も終わりにさしかかり残暑はあいかわらずですが、朝、夕の風に涼しさがでてきて過ごしやすくなってきました。バルセロナの夏は今年はどうでしょうか？

私は一年経った今でも暑かったあのバルセロナの夏を忘れずにはっきりと覚えていています。

当地のホテルで突然、急激な頭痛、嘔吐にて倒れ、病院に運ばれた私は「脳動静脈奇形」という脳血管病による脳溢血と診断され、郊外の大学病院に移動、入院することとなりました。思いもよらぬ突然の病気とスペイン語の全くわからない私は、医師の説明ももちろん理解できるはずもなく自分の症状さえわかりかねて不安で押し潰されそうでした。そのような時に保険会社から派遣された医療通訳の下山さんにお会いでき、まさしく「地獄に仏」、救われた気持ちでした。

現地医師からの症状の説明や経過、治療方針などの通訳はもちろん、病院関係者とのコミュニケーションの橋渡しや、常に前向きな言葉で私のメンタル面を支えていただき多岐にわたるサポートを受けました。親身でさまざまなお世話を受け、その後、無事帰国できたことには、今も筆舌に尽くしがたい感謝をかんじています。

下山さんのおかげで言葉の通じない異国の地で同じ日本語で説明を聞き、日本語で会話ができるということがどれほどありがたいことか実感しました。今後もお仕事にお忙しくご活躍なさることとおもいますが、お身体には気をつけて、どうぞご自愛ください。

追伸・去年、私がそちらで入院していたときに妊娠がわかった妻が二月に女の子を出産したこともあわせてお伝えします。

敬具

埼玉県 若林 弘幸（30歳）